

1. 評価結果概要表

作成日

2008年6月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0872500079
法人名	社会福祉法人 博友会
事業所名	フロイデグループホーム美和
所在地 (電話番号)	茨城県常陸大宮市鷲子686-1 (電話)0295-54-6133

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年6月5日	評価確定日	平成20年10月15日

【情報提供票より】(平成 20年 5月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 10 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.0 人	

(2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有() 円	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 88.77 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 博仁会 志村大宮病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住環境は緑豊かな農村地区にあり静かな佇まいである。建物も小規模多機能を想定して建てられたものであり、中庭にはバーベキュー等野外で食事やお茶を楽しめる空間も配置されていた。それらの設備を活用し通所利用者とともにお茶会・家族との交流もなされていた。また、散歩でいける程度の距離にはコンビニや道の駅があり人々の賑わいも感じられる。しかし、その反面地域住人以外の車の通りも多い環境であった。そのため自由に外出するには危険が多く近隣住人との関わりは比較的少なく、ホームの建物の中で賄ってしまうことが多いようであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価調査に対する対応された職員の姿勢は、現在でも前向きで好意的に実施され利用者の日常生活がより豊かに営まれるように支援されていた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、主に管理者が作成し職員には定期的に開催されているミーティングにおいて開示されている。しかし、一般の職員は外部評価調査に関しての理解が不十分なところが見られると思われる。今後は、職員・管理者が協働して作成できるような環境が望まれる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、定期的に開催されている。また、委員には市町村の職員も含まれている。しかし、運営推進会議で検討されている内容が「実施報告・今後の予定」などが主な内容であり利用者の生活が豊かになれるような内容に関するものが少ない状況であった。今後は、苦情・ヒヤリ・ハット報告等を含め利用者の生活の資質が少しずつでも向上され、地域の一員としても生活が出来るよう検証する事が必要であると思われる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族に対しては、ホームの便りと利用者の日常生活を記載した職員からの一言を添えて定期的に報告されている。また、法人として一年に一回無記名でのアンケート調査を行っておりそれらが法人の運営に反映できる仕組みがとられている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常生活の中で定期的に買い物・散歩に出掛ける取り組みはされていない。近隣が農村地区であること、近くに利用者の欲しがらうような(衣類・日用品)ものを販売する商店がない事も一因であるとの事であった。今後は運営推進会議に地域の民生委員さんも参加していただける予定もあることから今後は利用者と地域の住民が協働で何か行える仕組みづくりを支援していただきたい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	出来るだけ地域の方に入居していただき、できるだけ馴染みの関係を継続していただきながら生活できるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、全員ホームの理念を常に携帯し日常生活に生かせるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣は農村地区であり、毎日買い物等にはいけない。しかし、日常生活においても地域の方が訪れてくれるなどもあり、運営推進会議等に民生委員さんが参加してくれる予定もあり。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の内容は職員会議等で報告されスタッフに示されている。	○	運営者・管理者・職員が協働し外部評価を受ける事が重要であると思える。その為には、スタッフ全員で評価項目を検証する・ひとり1人で実際に行ってみるなど行い外部評価のもつ意義をスタッフ全員で理解していただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員は市町村の職員はじめ地域包括支援センターの職員等で構成され定期的に会議が開催されている。	○	過去に行われた運営推進会議の内容が、ホームの行事報告・今後の予定等で終了している。今後はホーム内でおこった「苦情・ヒヤリハット」報告等を活かし入居されている方の生活の資質の向上に繋がるような運営を検証していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の状況をふくめ「介護保険」以外の状況等についても市町村職員と一緒に相談している。運営推進会議等にも市町村の職員が参加し連携をとりながら運営している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は、定期的なホームの便りを送付している。その便りに利用者のホームでの様子などを職員が毎月記入して送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等には定期的に開催される職員会議で検証され、今後のサービスの資質の向上に努めている。また、法人として無記名のアンケート調査を毎年行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、(定期異動はあるが)利用者にダメージを与えないように異動の人数の制限をしながら実施している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自のチャレンジカードを活用し職員が自己研鑽できる仕組みを作っている。また、外部研究にも参加しその伝達研修も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	国・市町村の協議会等に参加し同業者との交流を行っている。また、法人内でも多様なサービス提供がされているため法人内の勉強会も充実している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在入居されている方は、同一法人の施設から入居された方が多いが、地域密着型となってから地域から入居される方には、職員が自宅に出向き家族・本人の日常生活について知りその後の支援につなげていく努力をされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者によっては話しにくい事もある可能性もあり、入浴時等で二人きりになれた時を利用しながら信頼関係を構築できるよう努力されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のなかで何気なく発される言葉や表情を見逃さないような支援を行い、利用者の自立支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、訪問時に家族の意見を聞く・電話で相談する。そのような事を行いながら職員会議にて検討し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は職員会議で定期的に見直され作成されていたが、その計画が日々の生活に活かされている様子が伺えなかった。	○	作成された介護計画は利用者の日々の生活の資質を左右するものであり、その計画が日常生活に活かされる事が重要であると思われる。計画・記録・介護が一体となれるような計画の作成と支援を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の当初の計画であった小規模多機能の設備・配置を活かし、利用者も通所の設備・サービスを適宜使用できる仕組みを作っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関があり、通常は併設の医療機関の医師が往診している。利用者の希望がある場合は、職員が同伴したり家族にお願いし馴染みの医療機関に受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における支援に関しては、併設施設があるため利用者が重度化すると、病院等に転院してしまう事が多い。	○	利用者・家族の看取りに関する意向をくみ取り、安心して生活を送りながら人生の終末期をおくれるような取り組みを検討していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人全体で「ISO・プライバシーマーク」を取得している。写真等の掲載に関しても個人個人に同意書をいただくなどの方法をとってプライバシーが保護できる仕組みをとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活もその方の日常生活のリズムにあわせ生活できるよう工夫しながら支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は基本的に法人の厨房で作成されているのでホームで作成するのは、味噌汁等簡単なものであるが利用者と共に作成するなど行っている。		法人全体の仕組みを変えるのは非常に難しい事であると考えられるが、「おやつ」の作成など出来る事から始められ日常生活につくる楽しみも見出していただく工夫等を検証していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴もその方の生活のリズムに合わせた時間に入浴するなど工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去に書道の先生をしていた方にホームの理念等を書いていただく、お洗濯など手伝って下さる方はできそうな事を一緒に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	イベント・地域の祭り・法人の催し物は開催され楽しみごとの支援はされているが、周りの環境が農村地区である事も手伝い、日常的に外出支援はなかなか出来ていない。	○	日常的に行える事「散歩・近隣の方との交流その他」などで生活に少しでもメリハリのある生活が送れるような支援が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	環境的に様々な方がとおる立地条件であり、利用者に対する周りからの危険を回避するために玄関のみ鍵が掛けられているが、中からは自由に出られるような環境である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練も「夜間・昼間」を想定し定期的実施されている。地域の方とも出来るだけ交流できるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本体の管理栄養士が立てた献立を摂取している。また、飲水量に関しても一覧表を作成し管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の中にも仲間とおしの語らいの場所も設置されており、中庭にはテーブルも配置されている居心地のよい生活空間が作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しご自宅にある馴染みの物を持ってきてもらったり写真を飾ったりご本人にとって居心地の良い空間を作れるような支援がされていた。		